

## コケシロアリモドキ *Aposthonia japonica* (Okajima) の腹板および側板形成 (昆虫綱・シロアリモドキ目)

神通 芳江・町田 龍一郎

### Yoshie JINTSU<sup>1)</sup> and Ryuichiro MACHIDA<sup>2)</sup>: Formation of Sternum and Pleuron of a Webspinner, *Aposthonia japonica* (Okajima) (Insecta: Embioptera) \*

<sup>1)</sup> Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki 305-8572, Japan

<sup>2)</sup> Sugadaira Montane Research Center, Sugadaira Kogen, Ueda, Nagano 386-2204, Japan

E-mail: jintsu@sugadaira.tsukuba.ac.jp (YJ)

本研究では、シロアリモドキ目の腹板および側板の起源を明らかにするために、ランドマークとなる外胚葉性陥入について、コケシロアリモドキを材料として詳細な観察を行ったので報告する。観察したのは、起源の異なる3種類の外胚葉性陥入、すなわち付属肢の外側陥入(幕状骨陥入 tentorial invagination、気門 spiracle)・付属肢の内側陥入(腹板側甲 sternal apophysis)・腹側正中陥入(棘甲 spina)である。

それぞれの外胚葉性陥入の形成はステージ8(インタートレプシス期)に始まり、ステージ9(胚反転期)にすべてが完成する。

「付属肢外側の対陥入」は大顎体節・下唇体節・中胸・後胸・腹部第1-8節に形成される。大顎および下唇体節のものは幕状骨陥入で、幕状骨前腕は大顎基部の前方内側から、幕状骨後腕は下唇基部の前方側方から陥入する。中胸以降のものは気管陥入すなわち気門であり、体節の前方に陥入する。中胸の気門はステージ8後期に前方へ移動を始め、ステージ9以降には前胸領域に位置するようにみえる。

「付属肢内側の対陥入」は大顎体節・下唇体節・胸部3節・腹部第1-10節に形成される。下唇体節のものは唾液腺陥入であり、ステージ11(背閉鎖完了期)に左右の下唇が中央で融合するのに伴い、中央で融合して共通管を形成する。胸部のものは左右がわずかに接近し、体節内をやや前方へ移動する。胸部および腹部の陥入は腹筋の付着点として機能する。腹部第9節の陥入は、体節の前方へ移動し、直腸盤を支える大きな筋肉の付着点となる。

「腹側正中陥入」は大顎体節・下唇体節・胸部3節・腹部第1-8節に形成されるが、孵化までに大顎体節・後胸・腹部第2-8節のものは退化する。腹側正中陥入は筋肉の付着点として機能する。

小顎体節には、いずれの外胚葉性陥入も形成されない。

今後は今回得られたこれらの外胚葉性陥入の位置情報を用い、腹板および側板の形成過程を追跡し、各節片の起源を明らかにしていきたい。

\* Abstract of paper read at the 45th Annual Meeting of the Arthropodan Embryological Society of Japan, June 5-6, 2009 (Oarai, Ibaraki).